

おいぜんタイムズ

8

第一〇〇回南三陸福興市

2011年4月29日、大震災の翌月に「南三陸福興市」は志津川中学校を会場に初めて開催されました。津波ですべて流失してしまいいるものもない商店主たちが、全国の商店街の支援を受け、各地の特産品を販売した第一回。避難所になっていた中学校には多くの町民が集い、再会の場ともなりました。その後も全国からのたくさんの方から毎月開催され、毎月末の恒例行事となっていました。

復興が進み、福興市は南三陸の旬の特産品をテーマにしたイベントへと姿を変え開催してきました。いよいよ100回目が見えてきたタイミングで新型コロナウイルス感染症の拡大に見舞われ、イベントの中止・延期を余儀なくされてきました。

本来2020年4月に100回目を迎えるはずだった節目の福興市がようやく2022年5月29日に開催され全国の商店街の皆様、支援をいただいた企業様が集結しました。

第一回目が被災からの再会の場であったように、コロナ禍でなかなか会うことができなかった遠方の方々との再会の場となりました。町長と福興市実行委員長が揃うイベントはおおよそ雨が降るといいうジンクスがありました。この日は快晴となり絶好のイベント日和となりました。

南三陸福興市はこの100回が

ひとつの区切りとなりですが、今後は各産業団体が主体となってお祭りが開催されていきます。夏まつり、かがり火まつり、おすばでまつり、寒鱈まつり、牡蠣まつりと南三陸を代表する特産物が冠となるイベントは続きます。

弊社社長も福興市実行委員会の副実行委員長として携わってきました。10年100回という一区切りを迎えましたが、150回、200回と続けたい気持ちがあるようです。



▲副実行委員長として閉会式で三本締めを行う弊社社長(中央)



▲南三陸福興市実行委員会及び支援いただいた方々の集合写真

新入社員入社

南三陸本社ではこの4月、地元志津川高校を卒業した2名が入社しました。18歳が2名ということで、社内の平均年齢もぐっと若くなりました。4月1日に簡易的な入社式を行い、数日間の研修を終え、現在では新しいことを教えられないながらも各持ち場に就いています。

1名は製造担当



▼社長から訓示を受ける新入社員2名

炙り笹新パッケージに

2017年の初登場から5年、南三陸の特産を炙って笹かまぼこに乗せた『炙り笹』のパッケージを一新しました。これまでひとつひとつ包装していましたが、3種まとめて包装するように変更しました。

過剰包装という言葉が近年聞かれるように、環境への配慮が求められる時代。プラスチック包装資材を削減しながらも質素な見た目にはしたくないという思いから完成したパッケージです。今回の夏カタログから新パッケージになりましたのでぜひ実物をご覧ください。



▼新炙り笹3枚入り

編集後記

前回の及善タイムズを発行した直後、福島県沖を震源とする大きな揺れに見舞われた宮城県。幸いなことに、施設や従業員に被害はなく、翌日から通常通り稼働することができました。東日本大震災から10年以上経った今でも、いつ大きな地震がくるかわかりません。弊社の常温長期保存できる笹かまぼこ。災害時の非常食として防災リュックの中に入れておくのも良いかもしれません。日清のカツ●ヌードルがローリングストックを推奨しています。笹かまぼこも推奨します。

さて、上述した南三陸福興市ですが、これを書いている私自身が前職で実行委員会事務局として第27回から携わっておりました。部署異動したあともおそらく80回くらいまでは運営を手伝っていたかと思えます。そんな福興市もとうとう100回、時の流れの速さを実感します。「宮本」

